

温州ミカン ‘きゅうき’ の簡易貯蔵と 幼木時の管理方法

果樹試験場

[研究期間]

平成27～29年度

[背景とねらい]

和歌山県オリジナル品種の‘きゅうき’は、12月に成熟する中生温州ミカンです。従来の品種よりも浮皮が少ないうえ、早生温州ミカンのようにじょうのう膜が薄く、食味が優れます。そこで、早生のような食味を持つ‘きゅうき’を新たな年明けの商材とするため、簡易な貯蔵法を検討しました。一方、定植直後でも花が着きやすく、枝や葉の成長も緩慢であることから、幼木の適正な枝梢管理法についても検討しました。

[研究の成果]

1. ‘きゅうき’ 簡易貯蔵方法

12月上旬に収穫した果実を入れたコンテナを積み上げた後、不織布シート（タイベックソフト）で被覆して貯蔵します（写真1）。



写真1 簡易貯蔵の様子
（縦置き、横4×縦2×4段）

- 1) 被覆することで無被覆に比べて湿度を約10%高く保持できます（図1）。
- 2) 1月下旬まで果実の減量率や果皮のしなび発生率を低く抑えることができます（図2）。
- 3) 貯蔵期間中の果実品質の変動が小さくなります（図3、4）。

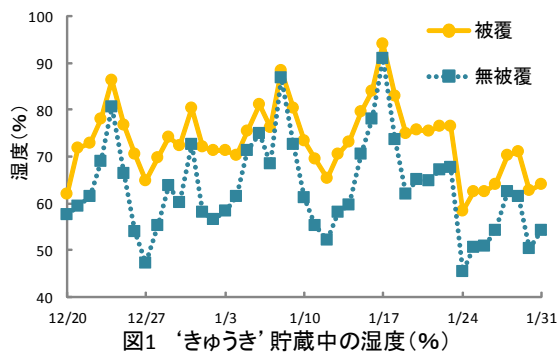


図1 ‘きゅうき’ 貯蔵中の湿度(%)

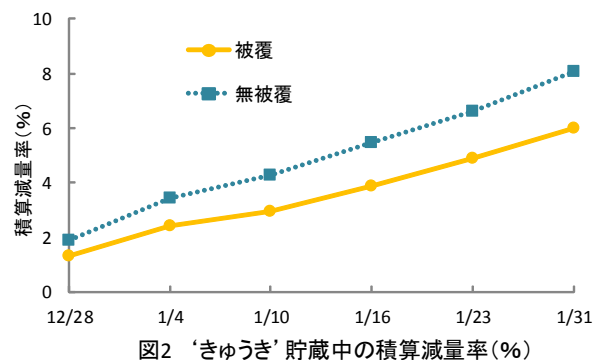


図2 ‘きゅうき’ 貯蔵中の積算減量率(%)

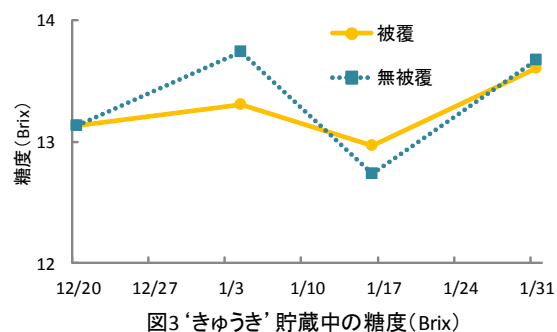


図3 ‘きゅうき’ 貯蔵中の糖度(Brix)

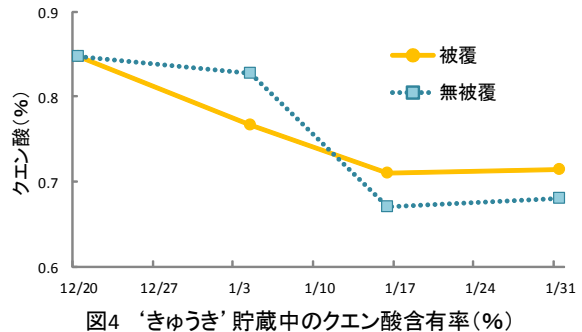
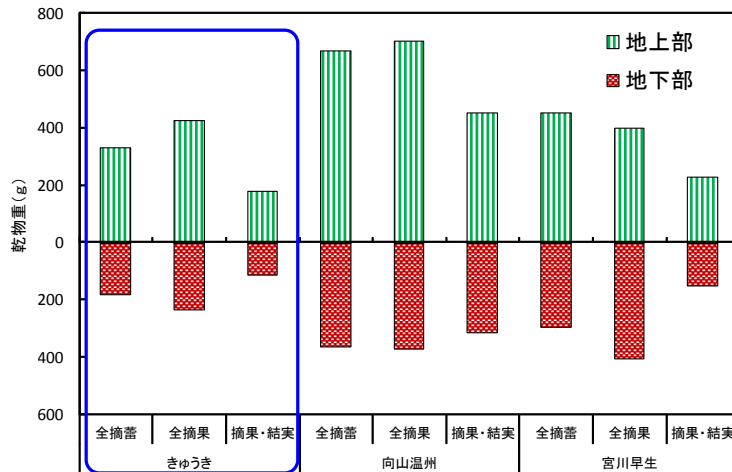


図4 ‘きゅうき’ 貯蔵中のクエン酸含有率(%)

2. ‘きゅうき’ 幼木の管理方法

- 1) 幼木の成長は従来の品種に比べて緩慢で、結実させると地上部（新梢や新葉）や根の量はさらに少なくなります（図5）。
- 2) 全摘蕾（5月）あるいは全摘果（6月上旬）を行えば、地上部および根の生育量は多くなります（写真2）。



※摘果・結実区：
8月上旬、適正葉果比になるよう摘果。
その後、11月下旬まで結実させた。

図5 3年生幼木の管理方法と生育量



全摘蕾区 全摘果区 摘果・結実区
写真2 各処理別の‘きゅうき’地上部・地下部の生育状況

[成果のポイントと活用]

1. 簡易な被覆によって果実の品質を収穫後約1か月半保持することができます。そのため、早生のような食味の‘きゅうき’を年明けに出荷することができます。
2. ‘きゅうき’の幼木は成長が緩慢ですが、植栽後2～3年間は結実させず全摘蕾や全摘果を行えば、樹冠の拡大を図ることができます。
3. 幼木の成長を安定的に促すには、全摘蕾や全摘果後に発生する新梢の充実を図るために、害虫防除を徹底するとともに窒素主体の葉面散布剤を散布する必要があります。また、長期の乾燥状態にさらされないよう、適切なかん水や堆肥の施用が重要です。

(問い合わせ先 TEL : 0737-52-4320)